

## 夢二 繚乱 東京駅で逢いましょう

東京ステーションギャラリー (JR 東京駅・丸の内) 2018.05.19～07.01

「竹久夢二」(1884～1934)は、数多くの美人画を制作し、抒情的な作品は「夢二式美人」と呼ばれた大正ロマンを代表する画家・詩人で、「大正の浮世絵師」とも呼ばれている。画伯は、書籍の装丁、広告宣伝物、日曜雑貨、浴衣などのデザインも手がけたため、近代グラフィック・デザインの草分けの一人でもある。



～展覧会の構成は「4章構成」になっている。～

### 第1章 夢二のはじまり 若き日々の検証

若かりし学生時代に制作された肉筆の画文集『揺籃』を初公開し、若き日の姿を紹介すると同時に、初期の作例を通して、どのような画家としてあゆみ始めたのかという原点に迫る。この「揺籃」は1903年に制作された外国文学の翻案や創作、さらに数年の挿絵を含む手書きの冊子などで注目されている。

### 第2章 可愛いもの、美しいもの 出版・印刷・版画などの仕事

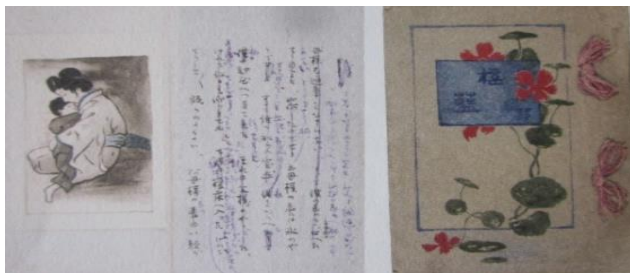
「夢二式美人」のスタイルが確立されただけでなく、絵葉書、雑誌表紙や挿絵や本の装丁など多方面にわたって活動を展開させていた。本展では、過去最大級の「500点」を超える展示品で、画伯の人生の多彩な活動をさまざまな角度から紹介するものである。

### 第3章 目で見る音楽 音楽や楽譜にまつわる仕事

画伯は数多くの楽譜の表紙を描いて、自ら作詞を手がけた「宵待草」など「270点余」の楽譜で大正時代の豊かな時代の華やかな音楽の世界を紹介している。

### 第4章 出帆 自伝小説『出帆』原画と没後の龍星閣による出版活動

「夢二」の半生を綴った自伝小説『出帆』は、挿絵に彼の愛した女性たちや訪れた風景に加え、抽象的な心理描写などの作品が水墨で描かれたもので、「134点」の挿絵原画の全作品が一堂に公開されているため大いに注目されている。



画文集「揺籃」と冊子の表紙 (1903年)



「出帆」原画 (1927年)